

甲 第 号

森川英子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第号	氏名	森川英子
論文審査担当者	委員長	教授	藤本 眞一
	委員	教授	嶋 緑倫
	委員	教授	今村 知明
	(指導教員)		

主論文

### **Association of Adolescent Smoking with Maternal Smoking**

思春期の喫煙と母親の喫煙の関係

Hideko Morikawa, Manabu Akahane, Masahiro Yamada,

Tomoaki Imamura

Open Journal of Preventive Medicine

第4巻第5号 347-353頁

2014年5月発行

## 論文審査の要旨

国は、未成年者の喫煙ゼロを目標に健康日本21で喫煙予防施策を進めてきたが、2010年度の未成年の喫煙は、未だ多い。本研究では、中・高校生の喫煙経験と家族の喫煙状況を分析、未成年者の喫煙率低下を図る効果的な施策を探ることを目的にしている。

統計資料として2004年の「奈良県子どもの生活習慣病予防調査」の一部「中・高校生の喫煙」に関する部分を利用し、喫煙率、中・高校生の喫煙経験数と家族の喫煙人数、喫煙経験と家族の喫煙の有無、ならびに喫煙経験を従属変数、学年、性別、家族を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。

解析結果としては、中学生、高校生の喫煙は、女子で軽度の増加、中・高校生ともに母が喫煙する場合に喫煙率が高い、ロジスティック回帰分析でも、中・高校生ともに母が喫煙する場合が父の喫煙よりも影響が大きい事が示された。

奈良県の中・高校生の喫煙は、学年が進むと増加し、喫煙率も母の影響は強い。従来、未成年者の喫煙防止対策は、男性に焦点をおいたが、今回の研究で母の喫煙影響が強く示されたことから、思春期の喫煙防止の施策は、母に重点をおく必要性が示唆された。鳥取大学の尾崎らが、1996年、2000年、2004年の3回、未成年全体の喫煙率が減少したことと母の相対的リスクの動向把握を提起したが、本研究結果が、母の喫煙影響を数値で示した。

本研究の成果の活用としては、学校と家庭を結ぶ教育への活用、小、中、高校に続き、大学の1回生等で、喫煙防止の総括教育のカリキュラム設計の活用、さらに乳幼児健診の場の活用があげられた。

「未成年者の喫煙をなくす」ことを目的に家族喫煙を分析し、母の喫煙影響が有意と導いた。今後は、新たな枠組みとして学校教育と地域保健を連携・統合させた施策実施の必要性が示唆された。

## 参 考 論 文

### 1. 高等学校における保健室登校の現状と課題

徳山美智子、辻 立世、森川英子

学校保健研究 (0386-9598) 34 卷 9 号 Page397-403 (1992. 09)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに健康政策医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 26 年 11 月 11 日

学位審査委員長

病態解析医学・医療教育学

教 授 藤本 眞一

学位審査委員

発達・成育医学

教 授 嶋 緑倫

学位審査委員（指導教員）

健康政策医学

教 授 今村 知明